

京都市帝國大學經濟學會

經濟論叢

第九十四卷 第三號

昭和十四年九月

論叢

新利子論序説……………

文學博士 高田保馬

英國及び獨逸の所得税……………

經濟學博士 汐見三郎

時論

現代日本の革新……………

經濟學博士 石川興二

世界新秩序の建設……………

經濟學博士 柴田敬

研究

史記平準書に見はれたる經濟思想……………

經濟學士 穗積文雄

府縣財政制度の成立……………

經濟學士 藤田武夫

經營比較の形態について……………

經濟學士 岡部利良

說苑

原料封鎖に於ける獨逸の經驗……………

經濟學士 大塚一朗

「ドレツ」農業經濟學と農村社會學……………

經濟學士 山崎武雄

附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

説苑

原料封鎖に於ける獨逸の經驗

大塚 一朗

一 序 言

ベルサイユ條約によつて西部及び東部の國境地帯に其の重要鑛區を廣く失ふに至る前から、軍需用諸原料に關する獨逸本國の自給能力には、大なる缺陷があつた。殊に、其の供給源泉を全然本國內に持つてゐない種類の重要原料も少くなかつた。棉花、ゴムの如き非鑛物性原料のことは姑く措くとしても、硝石の如きもまた其の一著例である。其の他なほ例へば良質滿俺、水銀、クロム、ニツケルの如きも殆んど缺乏原料に屬し、アルミニウム原鑛たるボーキサイトも其の必要量に照して見れば、また同じ状態にあつた。錫鑛坑

も既に以前から老廢してをり、石油の缺乏せることは勿論である。これら諸般の緊要軍需原料に關する國內自給力がかゝる状態であるのに、他方一九一四年七月の大戦開始當初には、獨逸も他の參戰諸國一般の例に洩れず、軍需原料諸資材の需給に就て殆んど何等の組織的計劃を立てゝはゐなかつた。このことは對英宣戰の直後にAIEG 總裁ラーテナウ(Rathenau)がメルレンドルフ(Moellendorff)の示唆に動かされ、國防大臣を訪ね、軍需原料に關して獨逸國民經濟の陥つてゐる重大な難境を鋭く指摘し、以て即時に一般軍需諸原料に對しての強力なる軍事的統制機構を確立すべきを進言したることに基き其の時漸く戰時原料局(KRA)が組織せられ茲に初めて一般原料の計劃的需給統制が開始されたといふ事情¹⁾を顧みてもよく分る。

開戰の當初に於て右の如き状態に立つてゐた獨逸が東西兩國境に敵軍を控えたる上、海上は英海軍其の他によつて強力制壓を受けて、四ヶ年有半殆んど全文明世界の大部より隔絶せしめられてをりながら、克く長

1) Goebel, O., Deutsche Rohstoffwirtschaft im Weltkrieg, 1930, S. 20 ff.

期に涉つて軍力を支持し得たるのみならず、なほその屈服の主因はこれを物質的側面より見るかぎり、決して直接軍需品の不足にはなく、寧ろ銃後食糧品の缺乏に存してゐたと史家の認むるところになつてゐる程に、強靱なる軍需原料支辨能力を長く持続し得たる所以の根據乃至は對策は、抑も何であつたであらうか。

此の問題に關係せる獨逸の經驗は、ひとり所謂戰時經濟封鎖の實效を批判し究明するに對して重要な一資料を提供するのみでなく、更に一般に戰時下の高度産業國に於ける原料及び生産への計劃的強權統制の意義に關して示唆を與へ裨益を齎すところが少くないと思ふ。こゝに、鑛業經濟學者トライオン(F. G. Tryon)が廿世紀財團(Twentieth Century Fund)の設置にかゝる經濟制裁問題研究委員會の委囑によつて提出せる、右の獨逸の經驗に關しての研究報告²⁾より其の要點を窺はんとする所以である。

二 原料の涉外的正常獲得

原料封鎖に於ける獨逸の經驗

獨逸は其の戰時經濟中、敵軍の海陸封鎖、中立國への聯合國側の政治的壓迫、船舶の不足、支拂手段としての金及び其の他の諸物資の逼迫、等々の重要諸障礙にも不拘、軍需諸原料の調達について最後迄涉外的正常獲得に負ふところが甚だ少くなかつた。

(一) 中立諸國からの原料獲得 吾々は先づこゝに最初に戰時中の經濟封鎖の實行が中立諸國を通じての貨物流通をも實質的に遍く其の統制網中に包攝して對外的交通遮斷の完璧を企求せんとすれば、經濟封鎖の組織づけと中立諸國との關係の調整とに多大の努力と長日月とを要し、而もなほ全く缺陷なき状態に達することが一般に極めて困難だといふことを、想起してをく必要がある。大戰中に獨逸に對して中立諸國より供給された重要な原料諸資材は少からぬ額に達してゐる。

其中立國より調達されたる軍需原料諸資材としては、スカンヂナビヤ半島地帯よりの電氣化學產物及び電氣精鍊諸金屬を始めとして種々なるものがあつた。

2) G., Tryon, How Germany met the raw materials blockade, 1914-1918. (Boycotts and Peace, by E., Clark, 1932, Appendix III.)

即ち諾威からは硝酸鹽、諸重要鐵合金、ニツケル、第一鐵珪素、モリブデン、黃鐵礦等が供給されたのであるが、其の供給は戦争の初期に於て殊に重要な意義を有してゐた。又瑞典から終始大量に流入してゐた鋼鐵及び銑鐵は獨逸の爲に非常に大なる支援であつた。他方石油は中立國羅馬尼亞より多量に供給されてゐた。後に此の羅馬尼亞が聯合國側に加擔して立つや獨軍は即時に同國に侵入したのだが、それは専ら同國の石油資源を占據することに目的を持つてゐた。こゝに見る羅馬尼亞の場合は有力交戰國に隣接する敵國側の國防脆弱地帯にして重要軍需資源を保有するものが一般に陥るべき運命を示唆してをり、極めて注意に値する事柄である。

(二) 同盟諸國からの原料獲得 戦時に於ける同盟國の意義は軍力の援助にのみあるのではなく、食糧や軍需原料諸資材の供給による援助乃至共同關係の上にも存してゐることを先づ考へてをかねばならない。

獨逸も大戦中に中歐同盟關係の諸國から原料供給を受

ける支援の道を持つてゐなかつたならば、かくまでに長い期間を強力な經濟封鎖に對抗し續けることは恐らく覺束なき事であつたであらう。但し土耳其からは輸送の困難の故に殆んど得るところはなかつた。又勃牙利亞からは少量の銅を供給されただけである。然るに埃國からは原料獲得上甚だ重要な援助を得たものである。就中ガリシヤの石油、ダルマチヤのボーキサイトは獨逸の戦争遂行能力の重要な基本的因子に屬してゐた。埃國からは更にクローム礦を供給せられ又水銀に至つてはそこからの供給が殆んど唯一のものであつた。其の他に、黒鉛、菱苦土石、黃鐵礦、滿俺、タングステン等も埃國からの供給を受けた。これらの事實は、一國の戦時經濟能力を觀察するに當つて、可能的同盟國からの供給關係を看過すべからざることにつき教えるところが大きい。

三 敵國領所屬の原料及び資源の占取

軍力による敵國領の占據が獨逸の原料諸資材の獲得

に對して貢獻したる影響力は甚だ大きい。獨軍が羅馬尼亞を占據するに際して聯合國側軍隊は油田の破壊、貯藏油の焼却に努力したけれども、彼等は其の被占據後に羅馬尼亞が如何に依然として獨逸に對しての有力な石油供給源泉をなしたであらうか、其の點を豫知することは出来なかつた。更に塞比亞領の占據は著しき分量に達する銅及びクロムの供給を結果した。なほ佛領ローヌの占據は同盟國側への鐵供給力を強化し勿論それだけ佛蘭西側の力を弱めた。其の他の占據地帯に於ても屢々、原料、仕掛品、機械類等の諸資材の夥しき獲得があつた事も重要視せねばならぬ。就中、白耳義、北部佛領、アントワープ等の攻略によつて獨逸は多量の石油、ゴム、硝酸鹽類、棉花、羊毛、其の他諸般の重要資材を入手することが出来た。これらの點は凡て一國の戦時經濟に於ける原料資材の調達能力の計算上に逸すべからざる一項目となるものである。

四 戦争開始當時に於ける貯藏分

原料封鎖に於ける獨逸の經驗

戦争開始の當時に獨逸の手にあつた原料資材の貯藏分は大別して三項目にすることが出来る。第一は、完財として保有された準備軍需品である。此の種の貯藏分は、周知の如く極めて其の額少く、事實戦争第一年の十二月迄に於て當初の貯藏分は消費し盡されてしまつた。ウルツバツヘル將軍の計算に據ると、それは戦争最後の年即ち一九一八年に於ての消費状態を以てするならば、僅に廿日間分の使用を支え得る量に過ぎざる程度のものであつた。第二は、特に戦争可能に對して計劃的に準備する目的を以て主として輸入によつて貯藏したる分である。これは一九一三年迄の獨逸輸入統計及び國內生産統計、ならびに其の他の獨逸經濟の諸統計を基礎にした詳細緻密の檢討によつて明にせらるべき問題を成すけれども、滿俺鑛を除いては特に注目すべき程の何ものもなかつたといふのが大體妥當の見解のやうである。これは、一九一四年八月八日のラーテナウの聲明³⁾からも推測され得るところである。第三は、海陸輸送の途中にある民間産業の原料資材と

3) 『我が國産業は準備なくして戦争の過程に飛び込んだ。かくて原料資材については特に大なる準備的貯藏を持つてゐない。』

消費經營及び生産經營の流動過程に置かれてゐた經常的準備手持の原料である。これらの項目も、獨逸の如くに多くの原料種類につき其の供給源泉より遠く隔つて位し、且つ高度に發達したる産業國の事としては、決して輕視すべき量ではないが、しかしそれには自ら限界のあることである。

五 民需用消費の制限及び民需資材の徵用回收

大戦中に獨逸に於て、高度の國民道德と巧妙にして強力なる組織の威力とが、驚くべき程度に民需を制限し統制し得て、以て少からぬ程度に軍需原料の供給を強化するに資益し得たる事實は一般に戰時經濟の問題について注目すべき教訓となり、示唆となるものである。棉花、羊毛、ゴム等の民需制限を始めとし、銅、錫、ニツケル、水銀、タングステン、等の重要諸金屬資材に關する民需消費の制限は極めて高度に達し、それは戰前使用量の十分の一にまで切詰められるに至つ

た。石炭の民需消費も亦極度に制限され、其の爲に操業停止の工場も生じ、旅客列車の運轉は免許を得たる旅客の爲のみに限られ、其の運轉回数は戰前の五分の一にまで減ぜられた。重要資材の民需使用の制限は更に進んで、缺乏資材を原料として製造乃至構成される生活用諸財、機械其の他の生産的諸手段、公共諸設備物等に於ける諸材料を徵集して軍需原料に轉用する方面にまで發展した。現代文明は生活過程並びに生産過程の諸方面に廣く且つ大規模に金屬資材を使用してをり、従つて現代の諸大都市は一般に一つの大鑛山にも譬へられるのであるが、戰時獨逸は此の事實を利用したのである。即ち始めには國民の自發制により、後には官權的強制々によつて、家庭、工場、店舗、諸公共設備物等凡有る不急の方面から、缺乏諸金屬殊に、青銅、眞鍮、銅、鐵等々を原材料とせる諸財貨又は廢品を徵募し回收して、獻納によるもの以外は公定價格によつて支拂つた。教會の鐘、銅像等の熔解等迄行はれた事實は、如何に大規模に徹底的に此の方法が實行

されたかを窺はしめる。鋼材料の屋根は剥がれ、門戸の眞鍮把手も姿を消した。

六 國內貧弱鑛區の開發

國內所在の貧弱鑛區を開發することも一の有力な手段であつた。黒鉛、黄鐵鑛の産額は嘗ての五倍に、タングステンのそれは十倍となり、ニッケルも必要量の約半額を自給し得るまでになつた。滿俺の産出量は一九一三年の百倍強に迄もなつた。一國內平時鑛産額を以て戦時經濟に於けるそれを推すべからざること及び鑛山産出能量の頂點に達する迄には藉すに年月を以てすべき事を教えたものである。

七 合成化學品の製造と代用原理の適用

物資の缺乏は、合成化學の實際的工業化に異常なる刺激を齎した。固定窒素工業と樟腦合成工業とは其の二大事例である。併し、合成ゴム及び合成石油の研究及び工業化は非常なる努力があつたにも不拘、戦時中には遂に成果を擧げ得なかつた。凡て此の方面では既

原料封鎖に於ける獨逸の經驗

に戦前に其の科學的研究が成功の域に達してゐたものだけが工業化され得た譯である。研究が多年の日子を要する事を教えるものである。

なほ、資材の用途を置換へたり、使用原材料を變更したりする所謂代用原理の實際的適用は軍需、民需の各方面に非常に廣く實行されて、獨逸の戦時下物資缺乏の緊張を緩和するに與つて大なる貢獻をなした。

八 結 言

現代戰爭に勝利を得べき經濟的基礎條件は、製鐵、機械製造、及び化學工業に於ける國內生産力の大規模な發達と並びに鐵鑛、石炭及び、石油の充分なる自給力にあるとは、今日、不動の鐵則にされてゐる。大戦當時、獨逸は石油自給力の點以外では右の諸條件を大體充分に充し得てゐた。爾餘の軍需諸原料の自給力乃至は戦前の準備に至つては、極めて大なる缺陷を持つてゐたけれども、本文に見たるが如き諸手段によつて長く其の缺乏緊張に對處して以て克く軍力を維持することが出来たのである。就中生産及び消費への組織的統制の力、國民の道德的協力、並に對外支拂力乃至は軍力を基礎とする涉外的調達の點が特に注目し値する。